

# 日本言語学会第 165 回大会 プログラム

会 長 福井 直樹  
大会運営委員長 江畑 冬生

期 日：2022 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）

会 場：オンライン（Zoom および oVice）

E-mail：[lsj@nacos.com](mailto:lsj@nacos.com)（開催期間中を除く。開催中の連絡先は後日公開いたします。）

※オンライン大会登録受付システムにて、事前に参加登録と参加費の支払いが必要です。大会登録受付期間は、10 月 3 日（月）～11 月 6 日（日）です。登録を済ませた方へのみ、Zoom ミーティング ID と oVice URL をお知らせします。

※公開シンポジウムは、Zoom ミーティング（事前登録制）と YouTube におけるライブ配信（一般公開：URL は後日公開）の同時配信を行います。また大会後に録画を YouTube にて公開します。口頭発表およびワークショップの録画は、大会後 1 週間の間、参加登録をされた方へのみ公開します。

## —— 前日（11 月 11 日） ——

15:00–17:00	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）
-------------	-------------------------------------

## —— 第 1 日（11 月 12 日） ——

10:20–16:30	口頭発表（Zoom 詳細は 2–3 頁にあります。）
16:00–17:00	ポスター発表（oVice 詳細は 3 頁にあります。）
17:00–19:00	懇親会（oVice）

## —— 第 2 日（11 月 13 日） ——

10:00–12:00	ワークショップ（詳細は 4 頁にあります。）
13:00–13:20	会長挨拶，日本言語学会学会賞授賞式
13:20–16:20	公開シンポジウム「琉球における言語継承活動の現状と課題」 <企画> 西岡 敏（沖縄国際大学） <司会> 下地 賀代子（沖縄国際大学） <登壇者> 「地域コミュニティと取り組む奄美大島方言のデータ収集・公開」重野 裕美（広島経済大学）・ 白田 理人（広島大学） 「一調査者が言語の継承にどう関われるか？：高校生との協働による宮古島諸方言記録活動の事例報告」林 由華（神戸大学） 「与那国島と沖永良部島の事例報告」山田 真寛（国立国語研究所） 「しまくとぅば講師養成講座」と「しまくとぅば検定」西岡 敏（沖縄国際大学） <指定討論者> 藤田ラウンド 幸世（横浜市立大学）

■口頭発表（11月12日(土) 10:20-16:30)

	A会場	B会場
	司会：[1-3] 吉村 大樹, [4-5] 柴崎 礼士郎, [6-8] 黒木 邦彦	司会：[1-3] 品川 大輔, [4-5] 白井 聡子, [6-7] 岩佐 一枝
10:20-10:50	[A-1] 菱山 湧人 チュヴァシ語における否定小辞 <i>an</i> の移動	[B-1] Sumiyo NISHIGUCHI PPI in Maasai
11:00-11:30	[A-2] アクマタリエワ・ジャクシルク キルギス語の数詞 <i>bir</i> 「1」の多機能性	[B-2] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の否定と主題化
11:40-12:10	[A-3] 日高 晋介 ウズベク語において推量を表す二つの分析的形式には どのような差異があるか	[B-3] 古閑 恭子 アカン語の <i>na</i> 焦点構文の韻律的特徴
12:10-13:20	(休憩)	(休憩)
13:20-13:50	[A-4] Anna KARBOVNYCHA Discourse Markers in Ukrainian —Contrastive analysis with Russian—	[B-4] 島 健太 現代中国語の“X 们”の意味と機能
14:00-14:30	[A-5] 木下 蒼一郎 ここじゃ雨なんか降らない —現代ロシア語の否定生格 に見る視点と存在の認知的関係—	[B-5] アルミロン・パトリシオ・バレラ パピアメント語における <i>nan</i> の場所標識機能について
14:30-14:40	(休憩)	(休憩)
14:40-15:10	[A-6] 王 雪瑤 身体部位詞を含む慣用句の意味拡張 —意味拡張プロセス からの分析—	[B-6] 沈 宏 ノス彝語の指示詞について
15:20-15:50	[A-7] 内ヶ崎 哲 古典サンスクリット複合語の <i>morphology/syntax</i> の不整合	[B-7] 濱田 武志 音韻学の方法の衝突：『文海』甲種本の反切と体裁に基 づく西夏語の音節構造の再考
16:00-16:30	[A-8] 鈴木 唯 トルコ語の項体言化と文法関係	

	C会場	D会場
	司会：[1-3] 星 英仁, [4-5] 瀧田 健介, [6-7] 沈 力	司会：[1-3] 松浦 年男, [4-5] 浅原 正幸, [6-7] 大滝 宏一
10:20-10:50	[C-1] 森竹 希望 虚辞 <i>it</i> と選択関係	[D-1] 中島 潤, 太田 真理 意味処理を反映する事象関連電位 N400 にマスク下ブ ライミングが与える影響
11:00-11:30	[C-2] 末永 広大 主語 <i>wh</i> 句の移動派生再考：主語・目的語の非対称性へ の拡張	[D-2] 磯野 真之介, 広瀬 友紀 主語の役割はいつ決まるか — 感覚交差語彙ブライミ ングによる調査
11:40-12:10	[C-3] 岡田 祐輝 英語の転換動詞・逆成動詞形成における統語環境の役割 について	[D-3] Chika OKADA, Yusuke SUGAYA The Role of Case-Marking Particles in Interpreting the Japanese Auxiliary Verb ( <i>Ra</i> ) <i>reru</i> : Evidence from Eye- Tracking
12:10-13:20	(休憩)	(休憩)
13:20-13:50	[C-4] Takayuki AKIMOTO, Yuta TATSUMI The Size of Clausal Complements of <i>-mitai</i> and <i>-yoo</i> in Japanese	[D-4] Yuchen ZHANG The semantic meaning and function of the Chinese adverb ‘[就] <i>jiu</i> ’ —A research in disjunctive conjunction sentences—
14:00-14:30	[C-5] Keisuke YOSHIMOTO Split Questions and Ellipsis in Japanese	[D-5] 森 一 「V て V」文の非連言的分析

14:30-14:40	(休 憩)	(休 憩)
14:40-15:10	[C-6] 張 瑩 日本語と中国語における分配を示す表現の構造分析	[D-6] 深津 聡世, 原田 宥都, 関澤 瞭, 田村 鴻希, 大関 洋平 深層学習モデルによる日本語動詞の双方向形態屈折の 検証
15:20-15:50	[C-7] Linya Yi A micro-parametric approach to the cross-linguistic variations in resultative constructions	[D-7] 加藤 剛史 用法基盤アプローチに基づく L2 英語発達指標の検討: 日本語母語話者を対象に

	<b>E 会場</b>	<b>F 会場</b>
	司会 : [1-3] 米山 聖子, [4-5] 吉岡 乾, [6-7] 衣畑 智秀	司会 : [1-3] 高橋 康徳, [4-5] 大島 デイヴィッド 義和, [6-7] 金 延珉
10:20-10:50	[E-1] 有賀 照道 文脈下で提示された同音異アクセント語の認知	[F-1] 周 端馳 中国語武漢方言における 2 音節軽声語彙の音声的実現
11:00-11:30	[E-2] 田中 雄, 土川 京子 借用語における拗音化の定量的分析	[F-2] 楊 斐斐 漢語河南省扶溝方言の二音節語における連読変調の実 験音声学的分析
11:40-12:10	[E-3] 松原 理佐 L2 英語の語処理における二重アクセスモデルとメンタ ルレキシコン内の音韻表示の非対称に関する検討	[F-3] Xuanxin WU, Akitaka YAMADA Acquisition of Standard Chinese Neutral Tone under Variation Theory: A comparison of Beijing Mandarin speakers and Cantonese speakers
12:10-13:20	(休 憩)	(休 憩)
13:20-13:50	[E-4] 江口 清子, 石川 さくら 様態動詞の経路句との共起制限と移動表現の類型論: ベンガル語の自立移動表現の考察から	[F-4] 大江 元貴, 居關 友里子, 鈴木 彩香 日本語の左方転位構文の「形式」と「意味」再考
14:00-14:30	[E-5] 吉田 樹生, 石川 さくら 体言化理論における文法関係と概念表示: インド・アー リア諸語の用言基盤体言化から	[F-5] 大神 雄一郎 いわゆる「属性付与」の「ガスル」構文と「ラシテイル」 構文の意味区分について
14:30-14:40	(休 憩)	(休 憩)
14:40-15:10	[E-6] 玉元 孝治 沖縄語形容詞述語の形態論 — そこに「ある」はあるの か?	[F-6] 黄 秀智 戦後韓国語における新聞の外来語の量的推移 — 日本語 の外来語の量的推移との比較—
15:20-15:50	[E-7] 宮川 創 北琉球奄美語と論島方言における対格標識と示差目的 語標示	[F-7] 劉 嘉勇 日本語のラレル構文と中国語の“被”構文の対照言語 学的研究 —意味領域の共通性—

■ポスター発表 (11月12日(土) 16:00-17:00)

16:00-17:00	[P-1] 新井 大智, 中野 陽子 文処理における意味的、統語的促進性干渉 —英語母語話者を対象にして—
	[P-2] Kevin HEFFERNAN, Yusuke IMANISHI Ongoing change in noun elaboration via bound suffixes in written Japanese
	[P-3] 田口 茂樹, 黒田 悠華 日本語のガ・ノ交替における「ノ」の残留について
	[P-4] 韓 喜善, 難波 康治, 陳 曦 標準日本語のアクセントの逸脱に対する違和感について —4 モーラ語の名詞を対象として—
	[P-5] 時崎 久夫, 桑名 保智 目的語-斜格-動詞の語順をとる言語

■ワークショップ（11月13日(日) 10:00-12:00)

10:00-12:00	[W-1] レキシコンの輪郭：派生の領域とインターフェイス 企画者・司会者：工藤 和也
	[W-1-1] 意味合成の領域とレキシコンからシンタクスへの写像 工藤 和也
	[W-1-2] 分散形態論と語彙的 V-V 複合語の意味構成 田中 秀治
	[W-1-3] 語彙層を超えた異形態：日本語の数詞からの試案 依田 悠介
10:00-12:00	[W-2] グロス再考：実践が支える言語観、言語観が導く実践 企画者：松田 俊介 司会者：西村 義樹 コメンテーター：林 徹, 古賀 裕章, 西村 義樹
	[W-2-1] グロス実践における問題点とその背景にある言語観 浅岡 健志朗 石塚 政行 松田 俊介
	[W-2-2] グロス実践における問題点の回避と素朴知識 石塚 政行 田中 太一
	[W-2-3] 表示は何を表示するか：グロス・ラベル・図 松田 俊介 田中 太一
	[W-2-4] ブロックの比喩の功罪と動的言語観 田中 太一 浅岡 健志朗 石塚 政行 松田 俊介

## お知らせ

- ◆Zoom/oVice へのアクセスについて  
接続に必要な機器・環境（ウェブカメラ、パソコン/タブレット、マイク/イヤホン、インターネット接続）は、参加者各自でご準備ください。
- ◆oVice（オヴィス）体験会  
ポスター発表、休憩室、懇親会等で使用する oVice の体験会を大会三日前より常時実施します。アカウント不要で、ブラウザ（Chrome 推奨）があれば使うことができます。ぜひ大会前にお試しください。
- ◆大会参加費  
大会に参加するには、事前の参加登録が必要です。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。大会登録受付期間は、11 月 6 日（日）までです。こちら（<https://orsam.jp/ljsj165/login>）からお早めにご登録ください。**事前登録と参加費の支払いを済ませた方に、学会 Zoom へのアクセス方法をお送りします。**送信は学会の三日前を予定しております。
- ◆大会参加証  
大会参加証明の必要な方は、会期中に休憩室（oVice）内の参加証リンクにアクセスして取得してください。
- ◆予稿集  
予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。
- ◆手話通訳などについて  
手話通訳や字幕表示の支援を必要とされる方は、10 月 7 日（金）までに学会事務支局（[ljsj@nacos.com](mailto:ljsj@nacos.com)）にお申し出ください。
- ◆会員懇親会  
会員懇親会は、oVice で開催します（ポスター発表と同じ会場です）。会場へのリンクは、事前登録と参加費の支払いを済ませた方向けのプログラムに掲載します。会費は、無料です。
- ◆書籍展示  
書籍展示は、ウェブ上になります。各書店の特設サイト等を学会ホームページに掲載します。一部書店は、oVice 内の休憩室に特設ブースを出店予定です。
- ◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー  
大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。
- ◆録画配信申し込み  
今大会では録画配信のみの申請も受け付けます（大会後にお送りするプログラムによる**録画のみ視聴可能**で大会当日のリアルタイム視聴はできません）。受付期間は、11 月 7 日（月）～11 月 13 日（日）です。大会参加費は通常の参加方法の場合と同じで、支払い方法は振込（銀行振込または郵便振替）のみとなります。希望される方はこちら（<https://pro.form-mailer.jp/fms/4f222671261823>）からの申し込みをお願いいたします。

## 事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



### 次回大会予告（2023年春季大会：第166回大会）

場 所：専修大学（神田キャンパス）

日 程：2023年6月17日（土）・18日（日）

公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

- ・発表応募締め切り 2023年3月20日（月）（必着）
- ・採否通知 2023年4月中旬

### 問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com